

2020年度入学生用
生命環境科学域

副専攻ガイド

「食生産科学副専攻」

食生産科学副専攻

食生産科学副専攻は、食の安全・安心の確保に貢献できる専門技術者の養成を目的として、生命環境科学域の獣医学類と応用生命科学類 植物バイオサイエンス課程が共同して提供する教育プログラムです。それぞれの学類・課程の教育内容に加えて、農産物と畜産物の生産現場から加工、流通、消費までの一連のプロセスを学修します。

詳細については入学時等に行われるオリエンテーションに必ず参加して説明を受けてください。

- (1) 獣医学類と応用生命科学類 植物バイオサイエンス課程の学生が対象であり、20名(それぞれ10名ずつ)を上限として履修者を決定します。希望者は、獣医学類の学生は入学時に、応用生命科学類植物バイオサイエンス課程の学生は課程配属後(2年次始め)に申請して履修承認を受けてください。

なお、本副専攻の修了者には、学士(獣医学)または、学士(応用生命科学)の学位と併せて、教授会の議を経て「修了証」が授与されます。

- (2) 食生産科学副専攻の修了証を受けるためには、獣医学類・応用生命科学類植物バイオサイエンス課程の各々の要卒単位を修得するとともに、表Ⅰ・Ⅱの科目を履修して単位を修得する必要があります。

注：本副専攻の履修と植物工場科学副専攻の履修を同時に行うことはできません。また、教育職員免許状取得のための履修との両立は困難です。

また、海外演習に伴う費用の一部負担等が必要になります。

◎科目と単位数について

(1) 必修科目(13単位):

下表Ⅰが、この副専攻の必修科目です。学類で、配当年次が異なっている科目がありますので、受講申請する時期に注意してください。

表Ⅰ

科目名	単位数	配当学年 (獣:獣医学類 植:植物バイオサイエンス課程)						備考
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
食糧衛生科学	2	獣	植					集中 ☆○
国際食料流通論	1		獣	植				集中 ★
食料流通論	1		獣 植					集中 ☆
食料生産実習	1	獣	植					集中 ★
国際食料流通演習	2		獣	植				集中 ★
食料流通安全評価実習	1		獣 植					集中 ★
総合衛生管理学実習	1			獣 植				集中 ★
植物バイオサイエンスフィールド実習A	2	獣	植					前期 ☆
食品保蔵・添加物論	2	獣		植				後期 ○

(2) 選択科目(11単位以上)

下表Ⅱから、11単位以上修得してください。

表Ⅱ

科目名	単位数	配当学年 (獣：獣医学類 植：植物バイオサイエンス課程)						備考
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
植物病理学	2	獣	植					後期○
産業資源植物栽培学	2	獣		植				後期○
園芸生産学	2	獣		植				後期○☆
獣医生理学A	2		獣					前期
毒性学A ※2	2			獣 植				前期●
獣医公衆衛生学 ※2	2			獣 植				後期●
基礎動物生理学 ※2	2		植					後期
毒性学実習	2			獣				後期
毒性学基礎実習 ※3	1			植			} 選択必修 集中★	
食品衛生学基礎実習 ※3	1			植				集中★

注意

- ・備考欄に ★ の付いている科目は、自由科目のため、要卒単位に含めることができません。
- ・備考欄に ☆ の付いている科目は、獣医学類の学生は、自由科目のため要卒単位に含めることができません。
- ※1 卒業要件に含まれる科目（専門科目、自由選択枠等）もありますので、履修にあたっては生命環境科学域の履修要項及び時間割を参照してください。
- ※2 応用生命科学類 植物バイオサイエンス課程の学生で「毒性学A」および「獣医公衆衛生学」の履修を希望する者は、事前に「基礎動物生理学」を履修することが望まれます。
- ※3 植物バイオサイエンス課程の学生は、「毒性学基礎実習」または「食品衛生学基礎実習」のどちらかは必ず履修すること。

受講申請方法について（下記科目に該当しない科目・学生はWEBで受講申請してください。）

- ・獣医学類の学生は、備考欄に ○ の付いている科目についてはWEBではなく、生命環境科学支援室にて特別様式（紙申請）、または shokuno-gp@plant.osakafu-u.ac.jp 宛に電子メールにて受講申請してください。
- ・植物バイオサイエンス課程の学生は、備考欄に ● の付いている科目についてはWEBではなく、生命環境科学支援室にて特別様式（紙申請）、または shokuno-gp@plant.osakafu-u.ac.jp 宛に電子メールにて受講申請をしてください。

食生産科学副専攻必修科目の概要

【食糧衛生科学】

学外の専門家による講義を受け、フードシステム（農場から食卓まで）における食中毒・農薬・食品添加物・遺伝子組換え作物などに関する基礎知識と、安全な食品を生産するための管理手段について学修する。

【国際食料流通論】

夏季休業期間中に2日間の集中講義を行う。関西空港検疫所見学と、国際食料流通演習（海外研修）の事前学習を行い、食品輸入の実際と規制について学修する。

【食料流通論】

春季休暇期間中に2日間の集中講義を行う。食品流通企業やマーケティング学の専門家、近畿農政局の専門家を招き、日本国内で安全な食品を流通させるための取組みについて学修する。

【食料生産実習】

夏季休業期間中に神戸大学の附属農場にて2泊3日間の農場・牧場体験実習を行う。牛の飼育管理やその過程での衛生管理などについて学修する。

【国際食料流通演習】

日本への輸入食品を生産する東南アジア・オセアニア地域の農場や企業などを、夏季休業期間に5～8日間程度の日程で訪問し、生産方法、品質管理方法について学修する。また、現地の大学など専門機関で関連する講義を受ける。

【食料流通安全評価実習】

春季休暇期間中に2日間の集中講義を行う。スーパーマーケットのバックヤードや、食品流通企業の品質管理部門を訪問し、食の安全を守る現場での取組について学修する。

【総合衛生管理学実習】

春季休業期間中に2日間の見学実習を行う。食品衛生法に基づいて食品分析を実施している機関および国内法の下国際標準に準拠している食品工場の2カ所を訪問し、食品の衛生・品質管理の実務講習を受ける。

【植物バイオサイエンスフィールド実習 A】

大学構内の教育研究フィールドにおいて作物の栽培技術と収穫方法、および収量や品質の評価方法について実習を通じて学修する

【食品保蔵添加物論】

食品における品質変化、品質保持および制御、保蔵の原理と方法について学修する。また、食品添加物の種類、効用、安全性を学修し、食品保蔵に関する知識を得る。

食生産科学副専攻ホームページ

<http://www.gp.vet.osakafu-u.ac.jp/bioenv/>



食生産科学副専攻についての連絡先

担当教員：山口 夕先生 yu-yama@plant.osakafu-u.ac.jp

担当事務員：張 曉嵐 shokuno-gp@plant.osakafu-u.ac.jp